



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造
養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年5月20日) 第6号



八鹿青溪中 HP

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

授業参観・PTA総会

5月11日(土)の授業参観・PTA総会におきましては多くの保護者の皆様にご来校いただきました。たいへんお疲れ様でございました。



まず授業参観では、やや緊張しみながらも、いつも以上に張り切って授業に臨む生徒たちの様子、あるいは、いつも以上に生徒の意見を引き出そうとする教員の様子などが垣間見えました。

またPTA総会では、令和5年度の活動報告等とともに令和6年度の役員組織や活動方針等について慎重に審議・承認をいただき、いよいよ令和6年度の八鹿青溪中学校が本格的に始動したことを感じました。

さて、やや残念であったのは、授業参観において大半の保護者が集中して授業をご覧になっているにもかかわらず、長時間にわたって私語が止まらない保護者の方が一部おられたことです。教員はこの日に向けて入念に授業計画を進めてきていますし、生徒もそれに呼応して最大限に力を発揮しようと頑張っています。そんな姿をじっくりと見ていただきたかったものだと振り返っています。

“持続可能なPTA活動”

PTA総会において“学校長あいさつ”の機会を頂戴しましたので、以下のような話をさせていただきました。



「我が国におけるPTA活動は、太平洋戦争直後の占領政策の中で、アメリカから持ち込まれたものであるとされています。当時は、女性

の社会進出がまだあまり進んでいない時代でしたし、三世同居という家族構成が主流の時代でした。つまり、比較的家を空けやすい時代であったと言えるでしょう。しかしながらそれからすでに70年から80年が経過し、世の中は大きく変わりました。女性の社会進出や核家族化が進み、保護者がPTA活動のために学校へ出かけるということが難しくなってきているのです。また、教職員の多忙化が進み、PTA活動を重荷に感じる教職員が増えているのもまぎれもない事実です。したがって、従前のPTA活動を踏襲するというかたちはもう時代に合わないということで、全国的にPTA活動の在り方やその存在意義などが広く議論されている状況にあります。八鹿青溪中学校では、PTA会長様とも相談し“持続可能なPTA活動”を合言葉にPTA活動のスリム化を図ってきました。今年度も“前からやっていることだから続けなあかん”ではなく、スリム化できるところは思い切ってスリム化していただいて結構ですから、PTA会員全員で“持続可能なPTA活動”を作り上げていくことにご協力をよろしくお願いします。

と一言いながら、私がここで長いあいさつをしているようでは、皆様の今日のご帰宅が遅くなってしまいますので、この程度で終わらせていただきます。本日はたいへんお疲れ様でございました。」

SNSの怖さ

携帯電話やスマートフォン、パソコンやタブレットが普及していく中で、それを所持する中学生が増えているのはご存じのとおりです。また、それに加えてゲームに興じる中学生が増えているのもご存じのとおりです。そして、その状況に伴うさまざまな深刻な問題が起きていることもよく



テレビや新聞紙上等で報道されます。学校としては、中学生のSNS利用に関する指導は随時行っていますし、各教育行政機関等もさまざまな啓発チラシ等を作成してその危険性を周知しようと努力しています。とは言っても、そもそもSNSを所持させているのはそれぞれのご家庭ですから、その結果についての最も大きな責任を問われるのは“親”であることを認識していただく必要があります。それでは、過去に実際に遭遇した生徒指導事案について紹介します。

- ① LINE等のアプリを通じて人間関係にトラブルが発生。それが“いじめ”に発展していった。
- ② SNS利用に没頭するがあまり、学業不振に陥る。また、就寝時刻が遅くなって翌朝の起床が困難になる。それらの結果、学校へ登校しにくくなる。
- ③ ゲームで“課金”を行い、親の知らぬ間に高額請求をされることになる。
- ④ 見知らぬ人とSNS上で知り合いになり、そのまま逃避行してしまう。

ご覧いただいておりますように、親が子どものSNS利用にしっかりと関心を持ち、各家庭でルールを定めたり、我が子のSNS利用の実態をきちんと把握しようとしておれば防げた事案であると考えます。

いっばうで、そもそもSNSが子どもにとって必要なものであるかどうかを各ご家庭で検討していただく必要があります。必要でないものは持たせない。必要であるならルールを決めて持たせる”のが基本であり、SNSに限らず、子どもがせがむのでどうしても買いつけてしまったということは避けたいものです。「だって!みんな持つもん!」「持ってへんのは僕だけや!」は子どもの常套句ですが、私もよく幼少期にいろいろな物を親にせがんだものです。しかしながら、「よそはよそ!うちはずち!」「うちにはそんな金はない!」と一蹴されてばかりでした(苦笑)。

校外での生徒の様子

今春以降、校外での生徒の様子について外部から注意や指摘を受けることが数件ありました。例えば、交通マナーについてや下校後の遊び方について等です。これらについては学校で生徒への指導をしっかりと行っていく予定ですが、各ご家庭でのご指導をよろしくお願いいたします。

思い起こせば、昔(25年~30年前)はもっともっとたいへんな苦情が学校に寄せられました。「万引きを見つけたので迎えに来い!」「橋の下でたばこを吸っているからすぐに来い!」「神社にたむろして困っている!」「ヘルメットをかぶらない生徒が居るから交通立ち番をしろ!」・・・など数え切れません。時には「お前の学校ではどんな教育をしとるんや!」と、今で言う“カスタマーハラスメント”的な辛辣な言葉を投げかけられたこともあり、苦しかったあの頃のことをふと思い起こすことがあります(苦笑)。

